

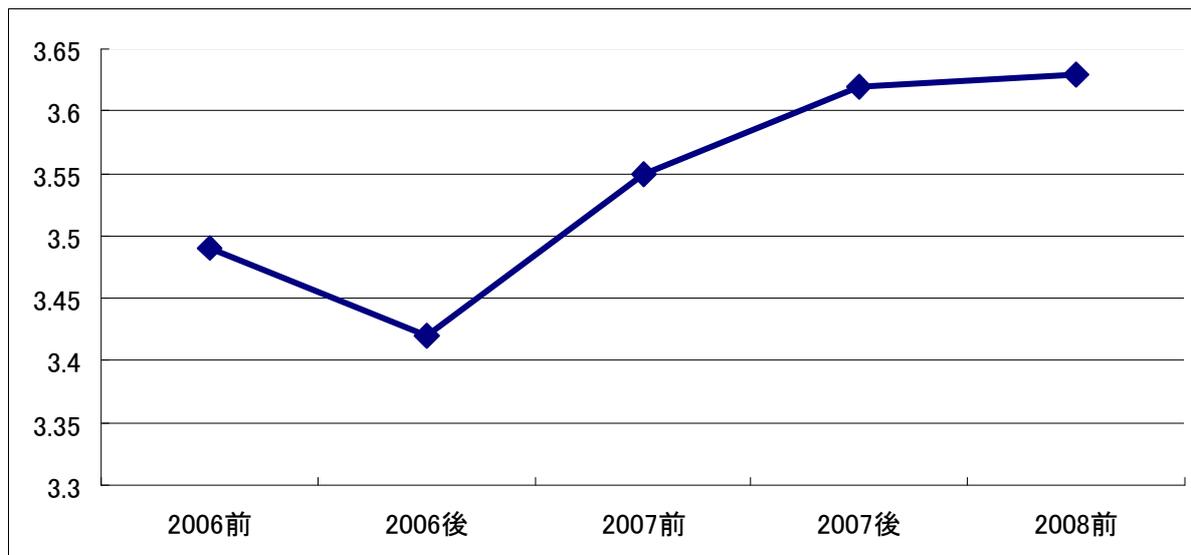
## 1 全教科を通して

下の表1は、これまでの「学生による授業評価」の各項目における全教科の平均点数の推移です。この表をみてもわかるとおり、16項目中、10項目で2008年度前期のときを上回っています。特に、「教員の熱意」「この授業を受けてよかった」「学生からの質問に答えようとする姿勢」は4.0ポイント以上の点数が得られています。一方、「十分に準備して授業に出席した」「様々な視点で分析・応用できるようになった」は、3.6ポイント台でした。しかし、図1が示すとおり、「十分に準備して授業に出席した」の点数は、これまでのところ上がってきており、その背景には教員が授業について工夫したこともあるのではないかと思います。

表1 年度及び学期における「学生による授業評価」の項目別点数

質問項目	2006年度 前期	2006年度 後期	2007年 度前期	2007年度 後期	2008年度 前期	前回との 比較
教員の熱意	4.17	4.15	4.1	4.16	4.21	↑
この授業を受けてよかった	4.05	4.05	3.97	4.08	4.09	↑
学生からの質問に答えようとする姿勢			3.98	3.99	4.00	↑
課題の量	3.94	3.95	3.82	3.84	3.98	↑
教員の声、聴き取りやすい	4.06	3.97	3.85	4.04	3.97	↓
シラバスが授業に反映	3.84	3.92	3.89	3.94	3.96	↑
板書、資料など、授業理解に役立つ	3.88	3.92	3.87	3.95	3.96	↑
成績の基準、事前にはっきり	3.79	3.83	3.77	3.88	3.96	↑
課題の内容は学習に役立つ	3.9	4	3.9	3.96	3.95	↓
学生の努力、公正に教員は評価	3.77	3.81	3.77	3.88	3.93	↑
授業の内容に興味・関心もった	3.86	3.87	3.84	3.95	3.91	↓
学生の質問に対する教員の工夫	3.72	3.71				
学生から質問をくみ上げようとする配慮			3.87	3.93	3.91	↓
授業の進め方及び内容、わかりやすい	3.73	3.76	3.67	3.82	3.79	↓
学習に適した環境、保たれていた	3.77	3.64	3.7	3.78	3.79	↑
十分に準備して授業に出席した	3.49	3.42	3.55	3.62	3.63	↑
様々な視点で分析可能に	3.59	3.67	3.56	3.72	3.60	↓

図1 「十分に準備して授業に出席した」の点数の推移



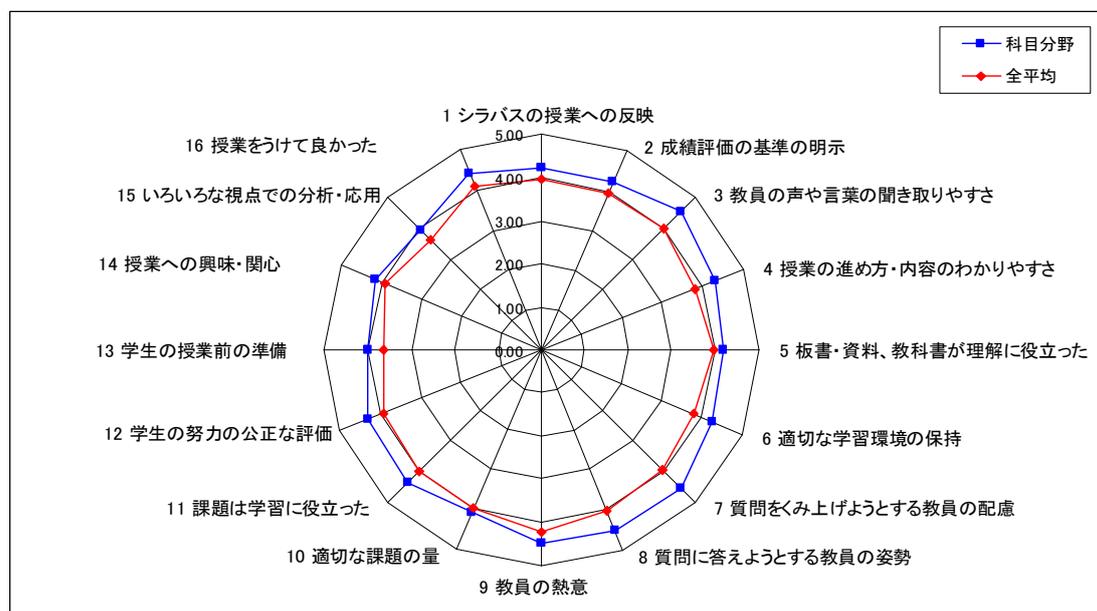
## 2 基礎科目について

### ① 文献講読演習

「文献講読演習」の学生による授業評価の結果は、全教科の平均と比べると、すべての項目について上回っていました。

また、2007年度前期と比べると2008年度前期が、すべての項目について上回っていました。特に、「シラバスの反映」「授業の進め方のわかりやすさ」「質問をくみ上げようとする教員の配慮」「質問に答えようとする教員の姿勢」の5項目において、0.5ポイント上回っていました。

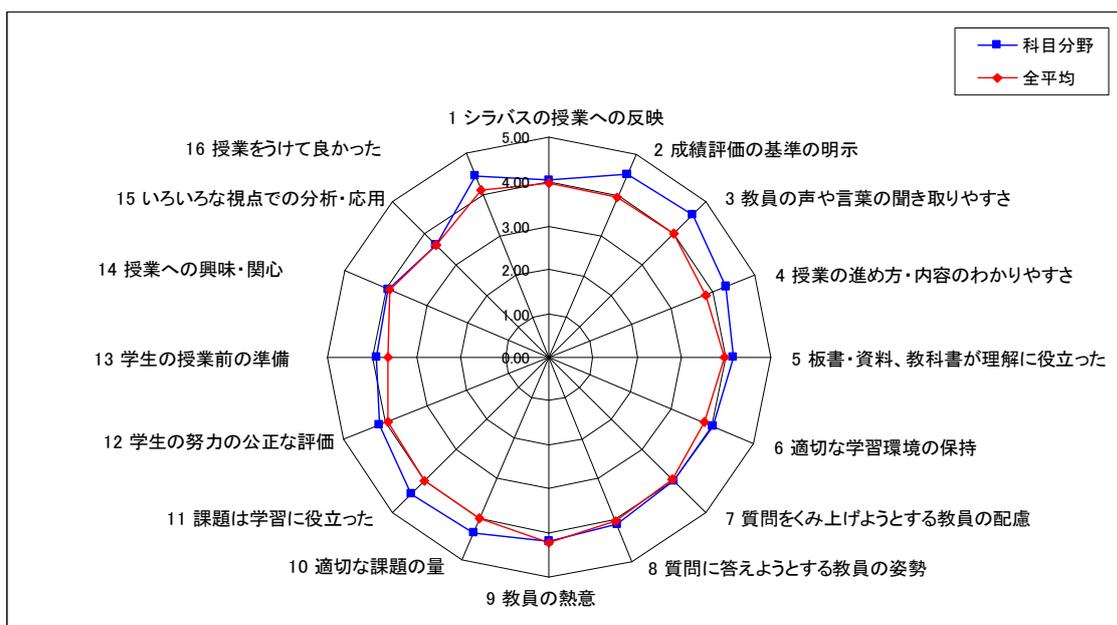
図2 「文献講読演習」と「全教科平均」の各項目での点数



## ② 日本語科目

2008年度前期の「日本語科目」の「学生による授業評価」は、ほとんどの項目で全教科の平均（以下、全平均）を上回っていました。特に、「成績評価の基準の明示」「教員の声や言葉の聞き取りやすさ」「授業の進め方・内容のわかりやすさ」では、「全平均」を0.5ポイント以上、上回っていました。

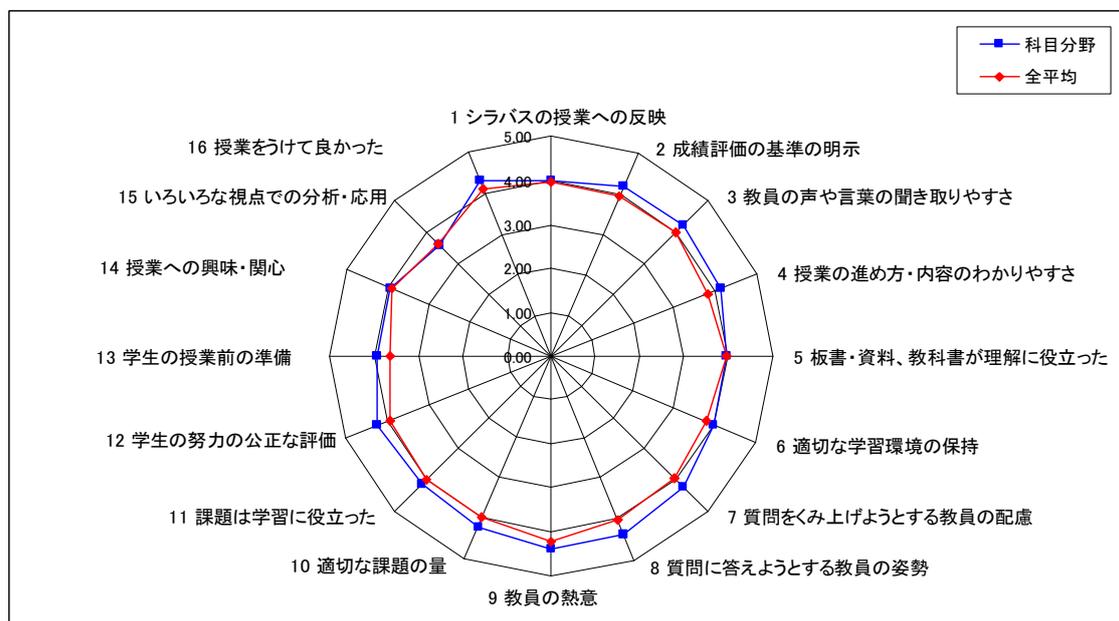
図3 「日本語科目」と「全教科平均」の各項目での点数



## ③ 英語科目

「いろいろな視点での分析・応用」以外の項目において、「全平均」を若干、上回っていました。

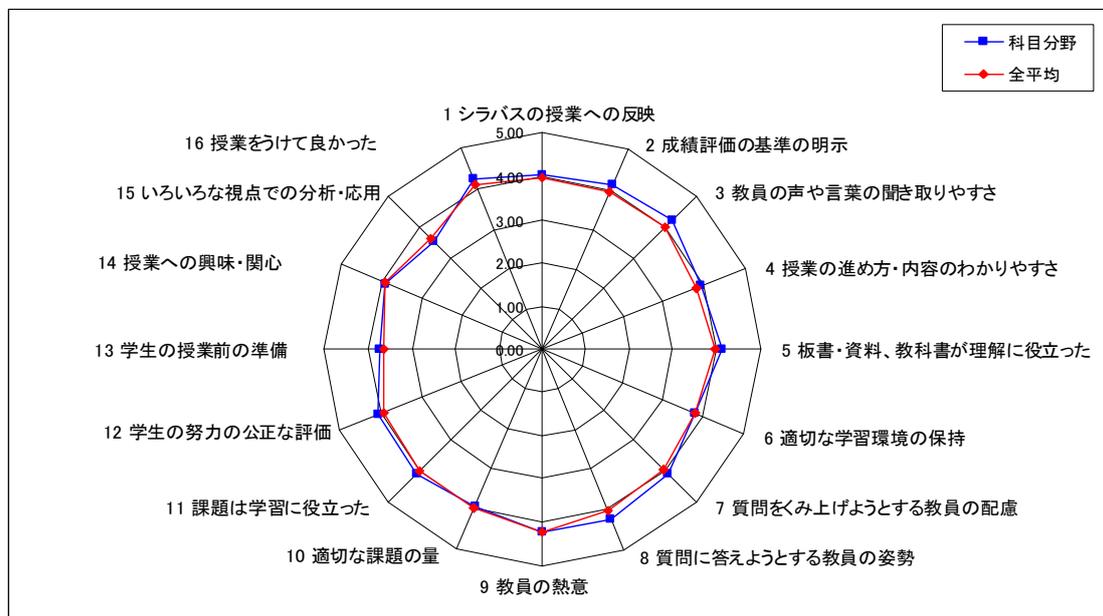
図4 「英語科目」と「全教科平均」の各項目での点数



#### ④ 情報・文献

「適切な課題の量」「授業への興味・関心」「いろいろな視点での分析・応用」以外の項目で、「全平均」を若干、上回っていました。

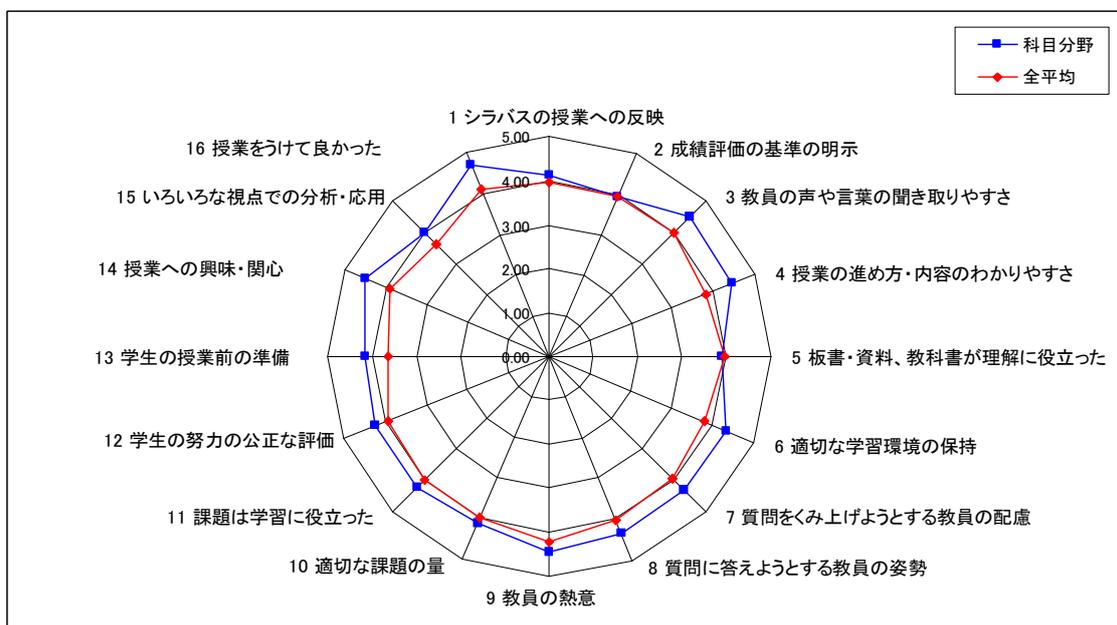
図5 「情報・文献科目」と「全教科平均」の各項目での点数



#### ⑤ スポーツ保健

科目の総平均（すべての項目の点数の平均）は、「全平均」を0.35ポイント、上回っていました。項目別でみると、「教員の声や言葉の聞き取りやすさ」「授業の進め方・内容のわかりやすさ」「適切な学習環境の保持」「学生の授業前の準備」「授業への興味・関心」「授業を受けてよかった」の項目は、全平均より0.5ポイント以上、上回っていました。

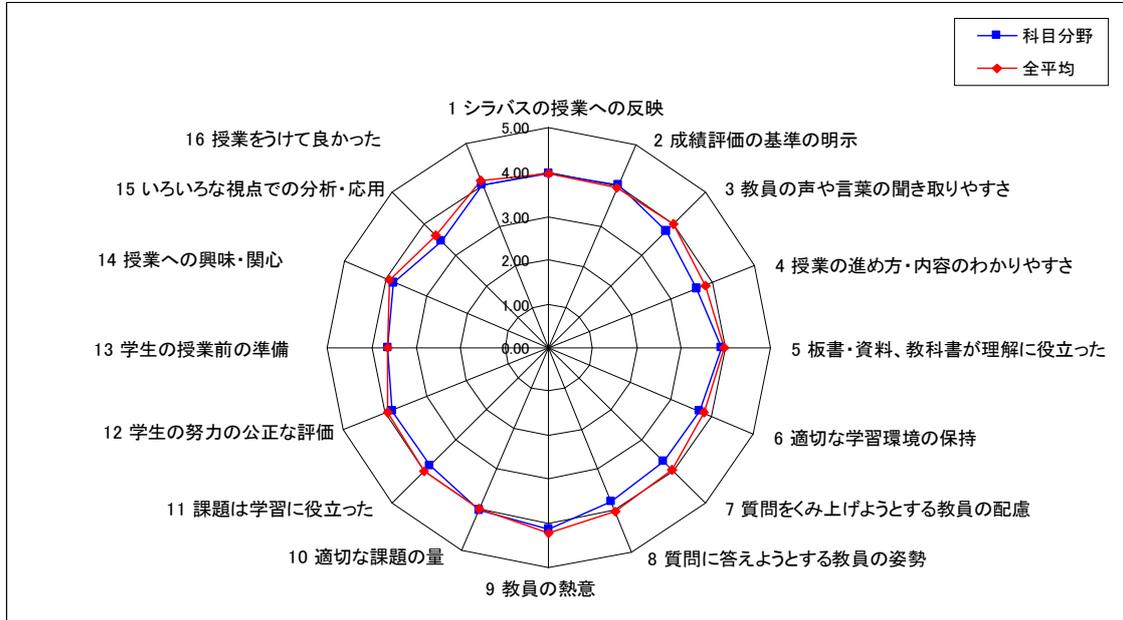
図6 「スポーツ保健科目」と「全教科平均」の各項目での点数



## ⑥ 現代教養

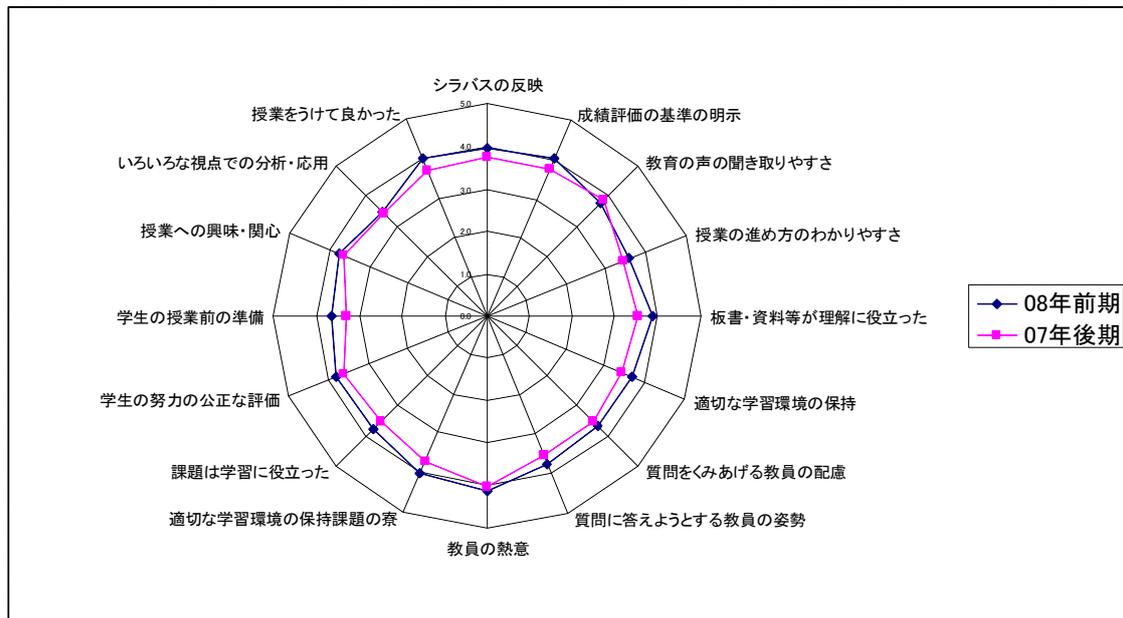
「現代教養」は、すべての項目において若干、「全平均」を下回っていました。

図7 「現代教養科目」と「全教科平均」の各項目での点数



ところで、2007年度後期と2008年度前期を比べたレーダーチャートが図8です。これを見て分かるとおり、2008年度前期の点数が2007年度後期の点数をほとんどの項目で上回っています。もっとも、2007年度は全教科にわたり学生による授業評価を実施したのに対して、2008年度は教員が選んだ教科について実施しているので、単純に比較はできませんが、担当教員自身が努力や工夫を続けていることを学生が評価しているのだとも思います。

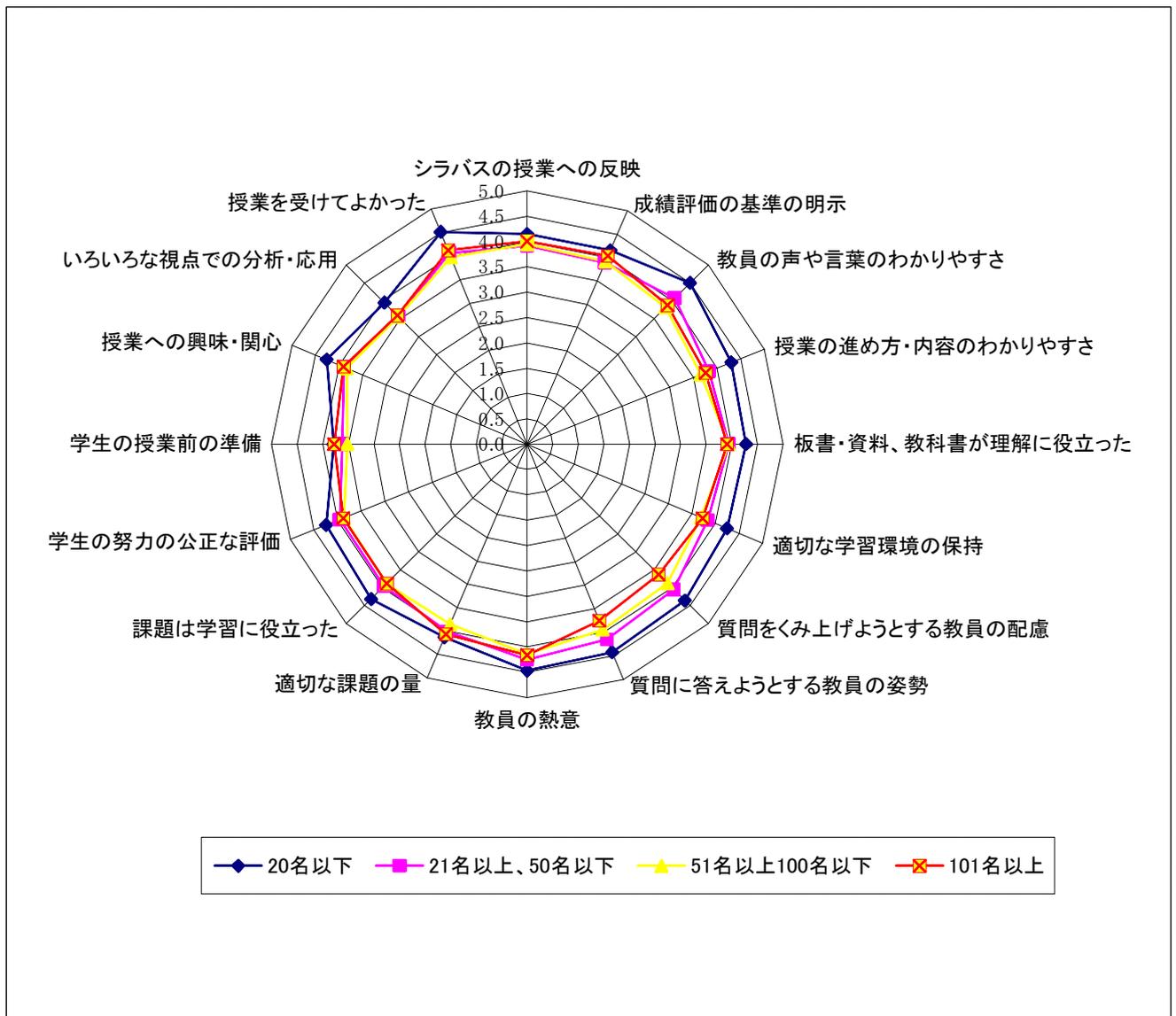
図8 「現代教養」のレーダーチャート(2007年度後期と2008年度前期)



### 3 受講生数別にみた「学生による授業評価」の結果

次の図9は、受講生別にみた「学生による授業評価」の結果です。これを見てもわかる通り、「20名以下」の授業はすべての項目について高い点数が得られていることが窺えます。それに対して「101名以上」の授業では、点数が低くなっていることが窺えます。特に点数が低いのは、「質問をくみあげようとする教員の配慮」(3.6ポイント)、「いろいろな視点での分析・応用ができるようになった」(3.6ポイント)でした。

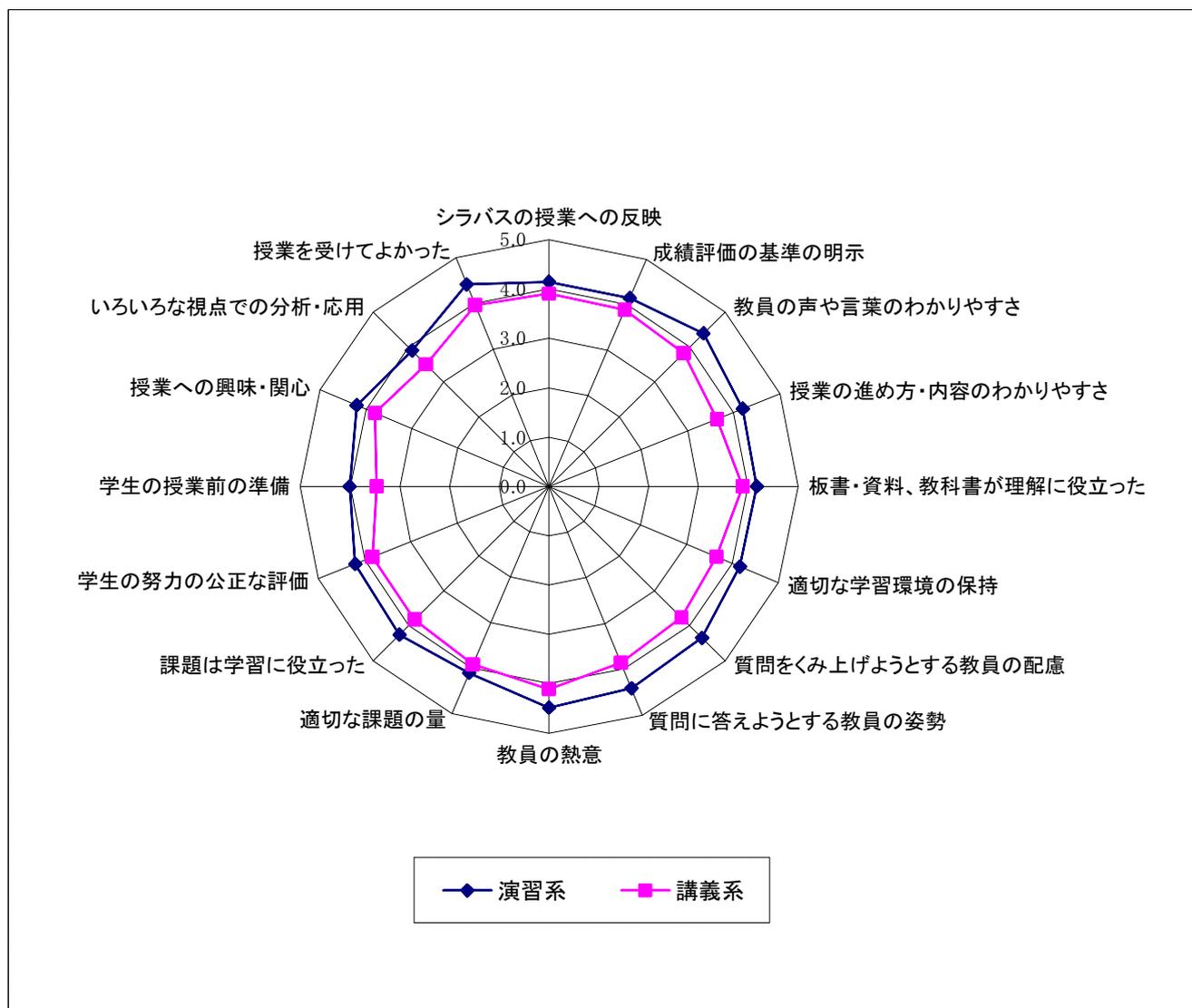
図9 受講生数別にみたレーダーチャート



## 4 授業の形態別にみた「学生による授業評価」の結果

次の図 10 は、授業の形態別にみた「学生による授業評価」の結果です。「講義系」と「演習系」のみの結果ですが、すべての項目において「演習系」の科目が「講義系」の科目を上回っています。学生は、参加型授業や協調・協同学習など、自分自身が関わられるような授業形態を望んでいるのではないかと思います。講義系の科目であっても、双方向型の学習を展開するため、感想や質問を書かせてそれを授業で反映させるなどの様々な工夫をしていくことが求められているのではないかと思います。

図 10 授業形態別(演習系、講義系)でみたレーダーチャート



## ま と め

2007年度に全教科にわたって実施した「学生による授業評価」の結果をもとに、2008年度は、各教員が判断して授業評価を受ける科目を決める形でなされました。従って、過去の結果と単純に比較することはできません。「前期」と「後期」の科目の違いもあります。しかし、制限はあるとしても、ある程度は比べることはできるのではないかと思います。

例えば、図1でみたとおり、「十分に準備して授業に参加した」の点数は、過去からの推移をみると上昇しているように見受けられます。この項目は3.6ポイント台に留まってはいるものの、過去からの推移をみると着実に上がってきています。

表1から、2006年度前期から2008年度前期までの点数の推移をみると、高い点数がだいたい取れている項目と、低い点数であることが多い項目があることがうかがえます。この5回の点数の平均では、「教員の熱意」「この授業を受けてよかったと思う」は4ポイント台ですが、「学生の質問に対する教員の工夫」「授業の進め方および内容がわかりやすい」「学習に適した環境が保持されている」「十分に準備して授業に出席した」「様々な視点で分析・応用できるようになった」は、3.8ポイント未満です。こうした、高い点数とはいえない項目について、どうすれば学生のみなさんから良い点数を得られるか工夫をすることも大切だと思います。

また、2007年度の「学生による授業評価」の結果もそうでしたが、「受講生数別による科目」でみると、大人数の授業と少人数の授業とでは、かなり点数の違いがみられました。授業形態（講義系・演習系）によっても、点数の違いがみられました。演習系の科目が、それぞれの項目について高い点数でした。参加型授業や協調・協同学習など、学生自身が関わられるような活動の工夫を授業でしていくことが、受講生がより授業に満足するために求められているように思います。また双方向型の学習を展開するため、感想や質問を書かせてそれを授業で反映させるなどの様々な工夫が講義系の科目でもできるのではないかと思います。

以上の結果を謙虚に受けとめ、大学全体としてよりよい授業を行えるように、大学教育FDセンターでは様々な方策をこれからも考えていこうと思います。